

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650180320		
法人名	医療法人 若草会		
事業所名	グループホーム わかくさ		
所在地	徳島市川内町小松西93		
自己評価作成日	平成22年6月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3650180320&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は木造平屋建て、静かな田園地帯にある。日中は施設せず、開放的な環境のもと利用者は自由に戸外で散歩を楽しまれている。「一人一人の生活を大切に」という運営理念のもと、利用者一人一人が今までの生活を途切らせることなく、希望に添った自由な生活を送れるように、またもてる力を最大限に発揮できるよう自立支援に取り組んでいる。各ユニットには自治会があり、出された希望や要望を受け止め、生活の質の向上や改善に繋げている。医療面では看護師を配置し、毎日の健康状態を把握し、医療機関との連携を密に図っている。また利用者の生活の向上や職員のスキルアップ、チームワークづくりを目指してグループ研究に取り組んでいる。地域の子ども会などと連携を図り、運動会やラジオ体操を一緒に行ったり、地域ボランティアの方と一緒に祭りや初業師、精霊流し等にも参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、手入れの行き届いた芝生や植木の緑に囲まれた田園地帯の静かな場所に建てられており、木造平屋建てで天窓からの陽射しがあり明るい。管理者と職員は、「一人一人の生活を大切に」を理念として、利用者のこれまでの馴染みの関係や地域の人々との交流を大切にしながら、ペットを飼うなど家庭的な雰囲気のなかで常に自由に行動できるよう支援している。利用者はユニットごとに自治会をつくり、定期的に、共同生活で起こりうる問題点や事業所への要望等を話し合い、職員はそれらの課題を解決していくよう努めている。管理者と職員は、日ごろからさらなる質の向上を目指しており、前回の評価時に検討されたい課題としてあげられた「利用者への更なる自立支援」と「小学生との交流」について、具体的な取り組みが始められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	医療法人 若草会 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人の生活を大切に」を理念としている。地域の一人として、これまでの暮らしをできる限り継続できるように、毎日のミーティング等で確認して、ケアプランにも取り入れて実践している。	職員は開設当初につくった理念を毎日のミーティング等で共有し、日々の実践につなげている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	散歩時に挨拶を交わしたり、地域の行事等にボランティアと一緒に参加している。知人の来訪があり、継続的な交流ができるよう働きかけている。夏休みには子ども達とラジオ体操をしたり、地域の方が餅つきを手伝ってくれている。	自治会に加入し、地域行事に参加したり事業所の行事に来てもらったりしている。また、子ども会のラジオ体操に庭を開放して、ともに楽しんでいる。散歩時の挨拶や農作物の差し入れなど、近隣の方々とも日常的にお付き合いをしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生を受け入れ、人材育成の貢献に努めている。また地元の小学校を訪問して交流を図っている。夏休みには、おやつ作り等をともに行う予定であり、3世代交流に向けた取り組みを行っている。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や活動・行事の予定と報告、各ユニットの自治会の様子、職員の取り組み等を報告している。参加者からは地域の情報や提案などをいただき、ホームの運営やサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は家族や地域住民、地域包括支援センター職員、管理者などが参加し、2か月ごとに開催し、事業所の取り組みの報告や地域の情報を得て、意見交換を行っている。また職員のグループ研究の発表の場としても活用し、地域住民への啓発とサービスの質の向上に活かしている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年2回発行している広報紙「わたしたちのお家」や、行事予定表、活動報告を記載したミニ広報紙を毎月お届けし、いろいろな情報や助言をいただいている。	毎月の報告書提出時に、1か月ごとの行事予定や行事報告を行っている。また、委員会や自治会活動などを記載した広報紙を持参し、取り組み状況を伝えて協力関係を築けるよう努めている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、自由に入出りできる開放的な環境作りを行っている。外に出ようとする行為が見られたら一緒に散歩に出かけ、さりげなく声かけをし納得してからホームに戻ってくるという寄り添うケアを心がけている。	管理者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、センサーを設置して安全で自由に入出りできる開放的な環境づくりを行っている。日ごろから利用者に寄りそい見守りながら身体拘束をしないケアを実践している。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、チームカンファレンス時に勉強会を行い職員の理解を深めている。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等について、現在必要な方はないが、チームカンファレンス時に定期的に勉強会を行い、必要な時に支援ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとり、ていねいに説明している。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、今後の対応について十分に話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族茶話会を開催し、意見や要望を言ってもらえる機会を設けている。また、意見箱を設置し、自由に投函できるようにしている。出された意見や要望をきちんと受け止め、日々のケアに活かしている。	ユニットごとに意見箱を設置するとともに、定期的に関行される運営推進会議や家族会、家族茶話会、各ユニットの自治会等から意見や要望を聞き、日ごろのケアや運営に反映させている。外部の相談窓口については、書面で周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞き、運営に役立てている。	毎月ミーティングを行って職員の意見や提案を聞いている。管理者は法人の運営会議に参加して、職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標及び主任、次長の人事考課表などで職員の勤務状況の把握に努めている。各種研修会を計画的に実施して、資格取得者には特別昇給等給与面にも反映させるよう規程等を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や併設事業所で開催される研修に参加している。月1回、事業所内で勉強会を行っている。またグループ研究にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは連絡をとり、事業所内の見学や実習、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面談し、これまでの生活の状態の把握に努めている。現在困っていることや希望されることを理解したうえで、安心して生活ができる環境づくりに努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や困っていることを確認・理解し、今後のケアに生かしている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、利用者や家族の希望や状況を確認し、できるだけ柔軟に対応を行い、必要に応じて居宅介護支援事業所にも相談している。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する人、される人の関係ではなく、人と人として関わる」「私たちはリビングパートナー」という言葉を職員教育に組み込んでいる。利用者を家族として、また人生の先輩として接することを心がけている。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望や思いを理解し、親子手作り昼食会やお誕生会、外出などの機会を設け、一緒に利用者を支えるための協力関係を築いている。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や墓参り、近所の神社へのお参り、馴染みの理・美容室や商店等を希望される方に、個別外出の支援を行っている。また昔の記憶にある眉山、駅前繁華街などの懐かしい場所への外出も行っている。	自宅に帰り、馴染みの友人や知人と交流できるように支援している。お墓参りや神社へのお参り、行きつけの美容院や商店等に出かけており、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う者同士で過ごせる場面づくりに努めている。食事の配膳や洗濯物たたみ等を通じて、お互いに支え合える関係づくりを支援している。利用者同士の関係がうまくいよう、注意深く見守っている。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後はお見舞いに行ったり、退居された方の自宅を訪問している。また、事業所の行事の案内も行い、参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者全員で構成される各ユニットの自治会で、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。	利用者一人ひとりの生活を大切にできるようなアセスメントシートを使用している。また、利用者と職員の関係性を考慮し、個別の担当職員を決め、思いや意向がより把握しやすいよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に自宅を訪問し、これまでの生活歴を把握している。入居後も利用者や家族との会話のなかから生活の様子の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、日ごろの言動から利用者の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を聞き、課題を全職員で話し合い、希望する生活ができるよう介護計画の作成に努めている。	担当職員が関係者から情報を収集し、本人や計画作成者、関係職員で意見を出しあって介護計画案を作成し、その後に家族の要望や意見を反映した介護計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状態や利用者の言動、その他気付いたことなどを個別のファイルに記録している。また、特に申し送りが必要な事柄は、日誌に記録し毎日の業務開始前にも個々で確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望・状況に応じて、受診やリハビリテーション等の通院、個別の外出支援を行い、利用者一人ひとりの満足度を高められるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、地域ボランティアの来訪があり、歌や舞踊を楽しんだり、意見交換なども行っている。また、交番や消防署にも広報報を配付し連携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への定期受診の他、状態に合わせて随時受診を支援している。体調変化がある時は、家族にも同行してもらい診察結果を聞いてもらっている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医による適切な医療が受けられるように支援している。受診時は、家族と相談しながら送迎や付き添いをしたり、家族に同行してもらったりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。24時間気軽に相談できる体制をつくっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の支援方法に関する情報を医療機関に提出し、頻繁に見舞いを行い健康状態を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における対応方針、看取り介護について説明を行い同意をいただいている。本人や家族の意向を大切に、利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう、医療機関との連携体制を作り、職員の知識向上にも取り組んでいる。	契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について事業所の対応方針を説明している。状態に応じて説明や話し合いを行い、本人や家族の意向の確認を行いながら、関係者間でその思いを共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスクマネジメント委員会を設け、3か月ごとに転倒や骨折、のどの詰り、意識消失、発作等の緊急時対応について勉強会を行っている。また、緊急対応マニュアルを作成し、緊急連絡体制も整えてその訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、台風時等のマニュアルを作成して、避難訓練や消火器の使い方、ビデオでの確認等、利用者も一緒に年4回の訓練を実施している。また、地域ボランティアにも協力いただき、地域での緊急連絡体制ができている。	利用者とともに夜間も想定した災害時の避難訓練を年2回実施している。また防災研修も年2回実施している。自治会長を通じて地域ボランティアとの協力体制を整えている。卓上ガスボンベや米、インスタント食品、飲料水等の備蓄管理ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、ていねいな言葉かけを心がけている。また、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応ができるように、マナー教室やその他の勉強会を行っている。	利用者	利用者を人生の先輩として尊敬し、誇りを損ねないようていねいな言葉かけをしている。入浴時やトイレ誘導時には、プライバシーの確保を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活のなかで、利用者が意思表示や自己決定ができるよう声かけを行い、希望にそった生活ができるよう支援している。各ユニットの自治会で利用者同士が話し合い、希望や願いを聞きだせるよう支援している。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間に幅をもたせて、一人ひとりのペースにあった生活ができるよう支援している。また、急な買い物や外出の希望にもできるだけ対応している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、自分で選んで更衣できるよう見守っている。馴染みの理・美容院に行き、希望する髪型にしている。またいつでも自由に化粧し、身だしなみが整えられるよう支援している。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は利用者が好みや得意料理を相談して決めている。調理や味つけ、盛り付け、後片付け等も利用者とともに、職員も一緒に楽しく食事できるよう配慮している。	献立は、利用者と職員が相談して決めている。材料の買い出しや調理、味付け、盛り付け、後片付け等も利用者一人ひとりの能力に応じてともに行い、同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の事業所の管理栄養士に献立の指導を受けている。また利用者の嗜好や身体の状態を把握し、利用者一人ひとりにあった食事を提供している。食事量や水分摂取量は毎日チェックしている。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、状態に応じた口腔ケアを行っている。				

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により排泄パターンを確認している。尿意のない利用者には、時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるようにしている。またパットの汚れ具合の確認も行い、オムツ使用を減らせるように取り組んでいる。	チェック表を活用して排泄パターンを把握し、夜間も含めてトイレで排泄できるよう誘導している。現在、排泄の自立は難しいが、オムツ使用者はいなくなり、紙パンツ使用者のみになっている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため繊維質の多い野菜を選んだり、毎日ヨーグルトを作りできるだけ摂取するようにしている。また一人ひとりの状態に合わせて散歩や歩行訓練、家事活動などで体を動かせるように心がけ、便秘の予防に取り組んでいる。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、昼食後から午後8時迄の間に自由に入浴できるが、希望者は午前中にも入浴できるようにしている。各ユニットの自治会で話し合い、交替で一番に入浴できるよう順番も決めている。入浴剤も気分に合わせて使っている。	毎日入浴できる体制になっており、一番風呂は、利用者が自主的に決めて時間帯の調整もしている。また、その日の気分で足湯や入浴剤を使用したり、温泉施設に出かけてゆったりと過ごすなど、より楽しめる工夫を行っている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家事や外出、レクリエーション等の合間に、居室やソファ、畳の上等で休息を取っている。就寝時間を把握し、利用者に合わせた声掛けを行っている。馴染みの布団や枕等も使用し安眠できるよう環境を整えている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に薬剤処方内容を確認、チェックシートに記入している。変更時は連絡ノートに記入し、薬剤師にも副作用等注意事項を記入してもらっている。また利用者ごとにファイルを作成し、全職員が確認できるようにしている。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮できるように、掃除やごみ出し、洗濯、買い物、調理等の役割を担い、手芸や書道など自分の趣味にあったレクリエーション活動に参加している。外出や外食も利用者と相談しながら行っている。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体での外出・小グループ外出・個別外出に分け、希望を聞き、温泉旅行や買い物等を家族にも協力をいただいている。個別外出で自宅やその周辺など馴染みの場所への外出を希望された時に行くことができるよう配慮している。事業所周辺の散歩は自由にできるように環境を整え、見守りを行っている。	日ごろから庭園を散歩したり、ベンチに腰を掛け戸外で気持ち良く過ごせる環境をつくっているが、その日の希望にそった個別の外出も支援している。その他、家族との外出やユニット毎の外出、少グループでの外出等も計画的に実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせて金銭を所持し買い物時には自分で支払いをしている。また職員が管理している方には、希望時に手渡している。自らの財布から現金を渡し、買い物の依頼をされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に自由に電話ができるよう支援したり、友人や親戚に手紙を出せるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けを行い、自分たちで作成した手作りの花やゴミ箱などを置き、心地よく過ごせるような工夫をしている。食事の準備は、台所だけではなくテーブルでも協力して行い、家庭的な雰囲気を感じられるよう工夫している。	居間や食堂は、天井が高く採光がよい。明るい空間のなかにゆったりとしたスペースがあり、ソファや畳の間もつくられている。壁には利用者と一緒につくった季節感のある作品や写真が飾られている。ペットの居場所も確保し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファでくつろいだり、畳の上で横になれるスペースがある。玄関やテラス、中庭、菜園にも椅子やベンチを置き、一人ひとりが気に入った場所でゆったり過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやテーブル、整理棚、鏡台などを好みに合わせて配置し、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫している。また仏壇や椅子、冷蔵庫、布団、枕、花、写真、ぬいぐるみ等の馴染みの品を持ち込んでいる。	利用者一人ひとりが、馴染みの家具や好みの置物を持ち込んでいる。また、利用者が落ち着いて居心地よく過ごせるように、家族や職員が配慮しながら配置を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を発揮できるよう、トイレや浴室に「使用中・空いています」等の札を掛けるなどの工夫をしている。安全面では、利用者の状態に合わせて椅子(回転・固定)や介助バー・マットを使用している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	医療法人 若草会 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人の生活を大切に」を理念としている。地域の一員として、これまでの暮らしをできる限り継続できるよう、毎日のミーティング等で確認して、ケアプランにも取り入れて実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶を交わしたり、地域の行事等にボランティアと一緒に参加している。知人の来訪があり、継続的な交流ができるよう働きかけている。夏休みには子ども達とラジオ体操をしたり、地域の方が餅つきを手伝ってくれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生を受け入れ、人材育成の貢献に努めている。また地元の小学校を訪問して交流を図っている。夏休みには、おやつ作り等をとともに行う予定であり、3世代交流に向けた取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や活動・行事の予定と報告、各ユニットの自治会の様子、職員の取り組み等を報告している。参加者からは地域の情報や提案などをいただき、ホームの運営やサービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年2回発行している広報紙「わたしたちのお家」や、行事予定表、活動報告を記載したミニ広報紙を毎月お届けし、いろいろな情報や助言をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、自由に出入りできる開放的な環境作りを行っている。外に出ようとする行為が見られたら一緒に散歩に出かけ、さり気なく声かけをし納得してからホームに帰ってくるという寄り添うケアを心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、チームカンファレンス時に勉強会を行い職員の理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等について、現在必要な方はいないが、チームカンファレンス時に定期的に勉強会を行い、必要な時に支援ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとり、ていねいに説明している。利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、今後の対応について十分に話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族茶話会を開催し、意見や要望を言ってもらえる機会を設けている。また、意見箱を設置し、自由に投函できるようにしている。出された意見や要望をきちんと受け止め、日々のケアに活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを行い、職員の意見や提案を聞き、運営に役立てている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標及び主任、次長の人事考課表などで職員の勤務状況の把握に努めている。各種研修会を計画的に実施して、資格取得者には特別昇給等給与面にも反映させるよう規程等を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や併設事業所で開催される研修に参加している。月1回、事業所内で勉強会を行っている。またグループ研究にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは連絡をとり、事業所内の見学や実習、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と面談し、これまでの生活の状態の把握に努めている。現在困っていることや希望されることを理解したうえで、安心して生活ができる環境づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や困っていることを確認・理解し、今後のケアに生かしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、利用者や家族の希望や状況を確認し、できるだけ柔軟に対応を行い、必要に応じて居宅介護支援事業所にも相談している。			
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する人、される人の関係ではなく、人と人として関わる」「私たちはリビングパートナー」という言葉を職員教育に組み込んでいる。利用者を家族として、また人生の先輩として接することを心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望や思いを理解し、親子手作り昼食会やお誕生会、外出などの機会を設け、一緒に利用者を支えるための協力関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や墓参り、近所の神社へのお参り、馴染みの理美容室や商店等を希望される方に、個別外出の支援を行っている。また昔の記憶にある高越山、四国88カ所参りなどの懐かしい場所への外出も行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う者同士で過ごせる場面づくりに努めている。食事の配膳や洗濯物たたみ等を通じて、お互いに支え合える関係づくりを支援している。利用者同士の関係がうまくいくよう、注意深く見守っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後はお見舞いに行ったり、退居された方の自宅を訪問している。また、事業所の行事の案内も行い、参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者全員で構成される各ユニットの自治会で、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に自宅を訪問し、これまでの生活歴を把握している。入居後も利用者や家族との会話のなかから生活の様子把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、日ごろの言動から利用者の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を聞き、課題を全職員で話し合い、希望する生活ができるように介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状態や利用者の言動、その他気付いたことなどを個別のファイルに記録している。また、特に申し送りが必要な事柄は、日誌に記録し毎日の業務開始前にも個々で確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望・状況に応じて、受診やリハビリテーション等の通院、個別の外出支援を行い、利用者一人ひとりの満足度を高められるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、地域ボランティアの来訪があり、歌や舞踊を楽しんだり、意見交換なども行っている。また、交番や消防署にも広報報を配付し連携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への定期受診の他、状態に合わせて随時受診を支援している。体調変化がある時は、家族にも同行してもらい診察結果を聞いてもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。24時間気軽に相談できる体制をつくっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の支援方法に関する情報を医療機関に提出し、頻繁に見舞いを行い健康状態を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における対応方針、看取り介護について説明を行い同意をいただいている。本人や家族の意向を大切に、利用者が安心して終末期を過ごしていただけるよう、医療機関との連携体制を作り、職員の知識向上にも取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスクマネジメント委員会を設け、3か月ごとに転倒や骨折、のどの詰り、意識消失、発作等の緊急時対応について勉強会を行っている。また、緊急対応マニュアルを作成し、緊急連絡体制も整えてその訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、台風時等のマニュアルを作成して、避難訓練や消火器の使い方、ビデオでの確認等、利用者も一緒に年4回の訓練を実施している。また、地域ボランティアにも協力いただき、地域での緊急連絡体制ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬し、ていねいな言葉かけを心がけている。また、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応ができるように、マナー教室やその他の勉強会を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活のなかで、利用者が意思表示や自己決定ができるよう声かけを行い、希望にそった生活ができるよう支援している。各ユニットの自治会で利用者同士が話し合い、希望や願いを聞きだせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間に幅をもたせて、一人ひとりのペースにあった生活ができるよう支援している。また、急な買い物や外出の希望にもできるだけ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、自分で選んで更衣できるよう見守っている。馴染みの理・美容院に行き、希望する髪型にしている。またいつでも自由に化粧し、身だしなみが整えられよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は利用者が好みや得意料理を相談して決めている。調理や味つけ、盛り付け、後片付け等も利用者とともにを行い、職員も一緒に楽しく食事できるよう配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の事業所の管理栄養士に献立の指導を受けている。また利用者の嗜好や身体の状態を把握し、利用者一人ひとりにあった食事を提供している。食事量や水分摂取量は毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、状態に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により排泄パターンを確認している。尿意のない利用者には、時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるようにしている。またパットの汚れ具合の確認も行い、オムツ使用を減らせるように取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため繊維質の多い野菜を選んだり、毎日ヨーグルトを作りできるだけ摂取するようにしている。また一人ひとりの状態に合わせて散歩や歩行訓練、家事活動などで体を動かせるように心がけ、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、昼食後から午後8時迄の間に自由に入浴できるが、希望者は午前中にも入浴できるようにしている。各ユニットの自治会で話し合い、交替で一番に入浴できるよう順番も決めている。入浴剤も気分に合わせて使っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家事や外出、レクリエーション等の合間に、居室やソファ、畳の上等で休息を取っている。就寝時間を把握し、利用者に合わせた声掛けを行っている。馴染みの布団や枕等も使用し安眠できるよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に薬剤処方内容を確認、チェックシートに記入している。変更時は連絡ノートに記入し、薬剤師にも副作用等注意事項を記入してもらっている。また利用者ごとにファイルを作成し、全職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮できるように、掃除やごみ出し、洗濯、買い物、調理等の役割を担い、手芸や書道など自分の趣味にあったレクリエーション活動に参加している。外出や外食も利用者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体での外出・小グループ外出・個別外出に分け、希望を聞き、温泉旅行や買い物等を家族にも協力をいただいている。個別外出で自宅やその周辺など馴染みの場所への外出を希望された時に行くことができるよう配慮している。事業所周辺の散歩は自由にできるように環境を整え、見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせて金銭を所持し買い物時には自分で支払いをしている。また職員が管理している方には、希望時に手渡している。自らの財布から現金を渡し、買い物の依頼をされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に自由に電話ができるよう支援したり、友人や親戚に手紙を出せるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けを行い、自分たちで作成した手作りの花やゴミ箱などを置き、心地よく過ごせるような工夫をしている。食事の準備は、台所だけではなくテーブルでも協力して行い、家庭的な雰囲気を感じられるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファでくつろいだり、畳の上で横になれるスペースがある。玄関やテラス、中庭、菜園にも椅子やベンチを置き、一人ひとりが気に入った場所でゆったり過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやテーブル、整理棚、鏡台などを好みに合わせて配置し、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫している。また仏壇や椅子、冷蔵庫、布団、枕、花、写真、ぬいぐるみ等の馴染みの品を持ち込んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を発揮できるよう、トイレや浴室に「使用中・空いています」等の札を掛けるなどの工夫をしている。安全面では、利用者の状態に合わせて椅子(回転・固定)や介助バー・マットを使用している。		